金融危機への緊急対応

今般の世界的金融危機に対応し、また世銀の脆弱層支援ファシリティ（VFF）を支援するため、日本政府は3年間で2億ドルを拠出する「緊急JSDF」プログラムの設置を発表しました。新たに設けられた本プログラムは、革新性の高い先駆的なプロジェクトとアプローチを重点的に支援することに加え、プロジェクト承認までの手続きを迅速化することにより、危機への対応力を高めるものです。

申請手順

JSDF事務局は通常、年間3回プロポーザルを募集します。JSDF運営委員会に申請を行うことができるのは世銀のタスクチーム・リーダー（TTL）のみで、グラントの受領または受益コミュニティとの協議内容を踏まえて作成した申請書類を、予算案と共に提出します。調和と調整を確実に行うため、世銀タスクチームには、受益国にある日本大使館と協議することが求められています。TTLにはまた、世銀の国別局長とセクター・マネージャの承認を得ることも義務付けられています。

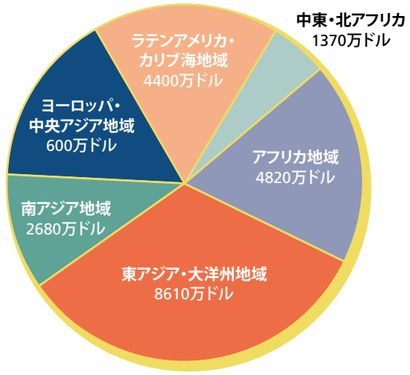
選考基準

申請書類は、JSDF運営委員会が審査した後、日本政府に提出されます。選考の主な基準は次の通りです。

- 最も貧しく弱い立場の人々のニーズを、直接かつ迅速に満たす革新的なプログラムを支援するものであること。
- 草の根レベルで政策や意思決定に変化をもたらし、現地の人々、NGO、CSOとのパートナーシップ構築を図る一方で、彼らのグラントの設計・実行への参加を奨励するものであること。
- グラントの支援するイニシアティブやメカニズムが、長期的には持続可能な活動に発展する可能性が高いこと。
- グラント活動が、世銀の当該国向け国別援助戦略（CAS）及び貧困削減戦略に沿ったものであること。
- 20万ドル以上300万ドル以下のグラント規模であること。

2001～2009年度のプログラムの概要

プログラムの種類	グラント件数	金額（単位：100万ドル）
通常プログラム	196	260.0
特別プログラム		
アフガニスタン復興	11	68.7
津波被害復興	14	19.8
パキスタン地震	4	6.5
シード基金	106	4.6
その他の基金	3	0.4
JSDFプログラム総額	334	360.0



2001～2009年度の通常プログラム・グラントの地域別配分
（合計196件、2億6000万ドル）

世界銀行グループは、グラントの受益者に代わり、
日本政府の寛大な支援に対し感謝の意を表します。
JSDFについての詳細情報は、以下のウェブサイトでご覧いただくか、
または、下記までご連絡ください。
http://www.worldbank.org/jsdf

Ms. Yolaine Joseph
JSDFプログラム担当
電子メール：yjoseph@worldbank.org
グローバルパートナーシップ・信託基金業務局

世界銀行東京事務所
〒100-0011
東京都千代田区内幸町2-2-2
富国生命ビル10F
電　　話：03-3597-6650（代）
ファックス：03-3597-6695
ホームページ：www.worldbank.org/japan/jp

世界銀行

日本社会開発基金

2009年10月

概要

日本社会開発基金（JSDF）は、最も貧しく弱い立場の人々を重点対象として、途上国におけるコミュニティ主導型開発と貧困削減を支援するグラントを提供します。1990年代後半に起きた東アジア金融危機の深刻な影響に対応するため、2000年6月に日本政府と世界銀行によって設立されました。設立当初の目的はその後拡大され、JSDFは今では、100以上の低所得国・中所得国を含む世界銀行の支援対象国にとって、貧困緩和を目指す革新的社会プログラムを実行するための重要な資金源となっています。

JSDFは設立以来10年間に、総額3億6000万ドルを上回るグラントを、総計330件を超える社会開発プログラムやプロジェクトに提供してきましたが、その全額が日本政府の拠出によるものです。JSDFが支援するプロジェクトは、カンボジアにおける土地配分の様々なアプローチの試行から、インドネシアにおける弱い立場にある外国人女性出稼ぎ労働者やその家族のエンパワーメント及び移民の社会への統合を通じた貧困削減にいたるまで、実に多岐にわたります。2008年からはアフリカ向け特別配分が導入され、農業の発展、参加型学校運営、保健サービスと管理の拡充などに充てられています。

重点対象分野

JSDFグラントは、通常の世銀の貸出や融資では対象とならない革新的な活動を支援することにより世銀のプロジェクトやプログラムを補完するものです。JSDFは特に次の活動に焦点を当てています。(i) 最も貧しく弱い立場に置かれた人々のニーズに直接働きかける活動、(ii) 革新的な手法の試行を支援する活動で、プロジェクトや国、地域レベルでの新規または代替アプローチや、新たなパートナーシップ構築及び新しい対象グループの支援を含む、(iii) パイロット・プロジェクトの導入やスケールアップを通じて、持続可能な成果をもたらすイニシアティブを支援する活動、(iv) 現地コミュニティ、非政府組織（NGO）や他のシビル・ソサエティ組織（CSO）が世銀プロジェクトに参加できるようオーナーシップ、キャパシティ・ビルディング、エンパワーメント、及び参加を促進する活動。

JICA、シビル・ソサエティ、国際的開発コミュニティとのパートナーシップ

JSDFプロジェクト実施課程で明らかになったことは、JSDFが政策担当者を含めた様々な関係者を取りまとめ、教育、社会福祉、保健、農業、法と司法、法務などの重要分野における説明責任、透明性、公正に関する国レベルの対話の活性化に貢献する有効なツールであるということです。専門知識を活用し、有効性を最大限に高めるため、JSDFは次のような様々なパートナーと協力しています。

国際協力機構（JICA）との協力は近年強化されており、現在、JSDF事務局とJICAワシントン駐在員事務所は定期的に会合を開いています。JICAと世銀タスクチームの対話から、いくつものプロポーザルが生まれました。こうしたプロジェクトは通常、JICAが行う国別援助戦略に沿った取り組みを踏まえています。

NGOとCSO：有能なNGOは、政府のプロジェクトでは実施困難な手法を用いて貧困層に働きかけることが可能です。JSDFは、NGO、コミュニティ・グループ、シビル・ソサエティ全体が、プロジェクトの設計段階から実施まで参加することを強く奨励しています。JSDFプロジェクトでは、NGOやCSOは受領者にも実施機関にもなることができます。ただし、各国の法律や政府の意向によっては、政府機関が受領者となり、NGOやCSOが実施機関となる場合もあります。これまでに承認されたJSDFグラントの50％以上は、NGOやCSOにより実施されています。

グローバル・ディベロップメント・ネットワーク（GDN）：世銀は、日本政府の要請を受け、開発の知識普及を推進する研究・政策機関から成る国際機関GDNと協力しています。毎年、GDNは貧困国における革新的な開発プロジェクトのプロポーザルを募集します。世銀は、こうしたプロジェクトの審査と選考に協力し、受賞したGDNプロジェクトやアイデアにJSDFの資金提供が可能かどうかを検討します。

2009年の主な新規JSDFプロジェクト

ジャマイカ：コミュニティの犯罪・暴力防止

ジャマイカで急増する犯罪と暴力は、この国の経済成長と観光に甚大な影響を与えています。暴力的な犯罪が多発する都心の12のコミュニティで、270万ドルの本プロジェクトは、犯罪や暴力の発生を減少させることを目指しています。治安が向上すれば、危険な一帯に暮らす計9万3500人がその恩恵を受けられます。本プロジェクトは次のコンポーネントで構成されています。

- 犯罪・暴力防止に実績のあるコミュニティ組織やNGOを支援する、ジャマイカ暴力対策基金の設立。
- 総合犯罪情報システムの構築と導入。
- 若年層を対象とする社会活動やキャパシティ・ビルディング活動など、コミュニティ・ベースの犯罪防止活動。

ケニア：半乾燥地域におけるコミュニティ・ベースの農林企業

JICA資金による社会森林強化計画を踏まえた200万ドルの本グラントは、タラカ、ンベーレ、キトゥイ県の貧しい農民の収入や暮らし向きの改善を支援し、また、農民田んぼの学校（FFS）グループ間のネットワークを強化します。現在、FFSグループは約330に上ります。本プロジェクトは、財政支援と技術協力により、さらに80のグループの結成を目指しています。主な活動は次の通りです。

- 農林業の生産能力を備えた農民にグラントや融資を提供する投資支援ファシリティの設立。
- トレーニングと農民間のネットワーク構築を通じた、現地レベルのイノベーションを支援。
- FFSネットワーク間と森林サービス機関スタッフの能力の強化。

ベトナム：少数民族の子ども対象の基礎教育の向上

190万ドルの本キャパシティ・ビルディング・グラントの目的は、少数民族コミュニティの5～14歳の子どもたちが質の高い初等教育を修了し、中等教育へ進学できるよう支援することです。本プロジェクトの対象となるのは、人口の90％が社会・経済的に恵まれない少数民族から成るディエン・ビエン、クァン・トリ、イェン・バイに住む計3万8000人で、主なコンポーネントは次の通りです。

- コミュニティの強化、就学促進による教育へのアクセス改善。
- 伝統的な現地の知識に合わせた新たな学習アプローチと教材の導入による教師の質の向上。
- 学校運営と参加型のモニタリング・評価の拡充によるコミュニティの関与の強化。

アルバニア：コミュニティ開発を通じた若者のエンパワーメント

アルバニアでは、人口の70％近くが30歳未満と「低年齢化」が進んでいます。その約半数は中等教育を修了しておらず、多くの若者が失業状態にあります。120万ドルの本プロジェクトは、国内で特に人口の多いティラナとデュレスに住む不利な立場の若者が、教育、雇用、コミュニティ活動へのアクセスを確保し、市民として積極的に生活するよう支援します。主な活動は次の通りです。

- 暮らしや雇用のための技術訓練を通じた若者のキャパシティ・ビルディング。
- 若者の起業活動を支援するための、最大2500ドルの少規模グラントの提供。
- 若者が自ら特定したコミュニティ開発活動にグラント支援を行うことによるコミュニティ活動やリーダーシップへの若者の参加促進。

ネパール：貧困層のための中等学校奨学金

約200万ドルの資金による本プロジェクトは、貧しいコミュニティの子どもたち（9年生と10年生）の教育費に資金面の支援を提供しています。毎年、9年生の生徒6250人に、授業料と教材、場合によっては交通費やその他の生活費もカバーする奨学金が給付されます。一番の目的は、社会・経済的に不利な子どもたちが教育を受けやすくなることと、教育の質を高めることです。奨学金プログラム実施に加え、本プロジェクトは次の点を重視しています。

- 奨学生選考、奨学金給付、プログラムのモニタリングのための能力開発。
- 中等教育を受けることに対する資金的インセンティブ。
- 効率、修学・学習成果への影響の観点からのプログラム評価。

モロッコ：農民のための教育改善に向けたキャパシティ・ビルディング

230万ドルの本グラントは、モロッコの最も貧しい農村部における初等学校の高い中退率を改善する目的で、政府が実施するパイロット・プログラムを支援するものです。
プロジェクトの重点は、モロッコ教育省と現地の小学校やパートナーであるNGOが、4万5000人の子どもに恩恵をもたらす条件付き現金給付（CCT）プログラムを管理・監督できるようキャパシティ・ビルディングを行うことで、次のコンポーネントで構成されています。

- CCTプログラムを進め、受益者の協力が得られるよう支援するキャパシティ・ビルディング 。
- 現地の高校や保護者会の学校運営と説明責任の強化のためのトレーニングとキャパシティ・ビルディング。
- 保護者会の活動を支援するための少規模グラント（2500ドルずつ）の提供。

グラントの種類と適格国

世銀が援助対象とする低所得国と低位中所得国は、いずれもJSDFグラントを申請することができます。JSDFグラント・プログラムには次の3つのカテゴリーがあります。

通常プログラム：恵まれないコミュニティに直接恩恵をもたらす革新的なプログラム導入を目指すプロジェクトまたはキャパシティ・ビルディング活動に、最高300万ドルの資金を提供します。

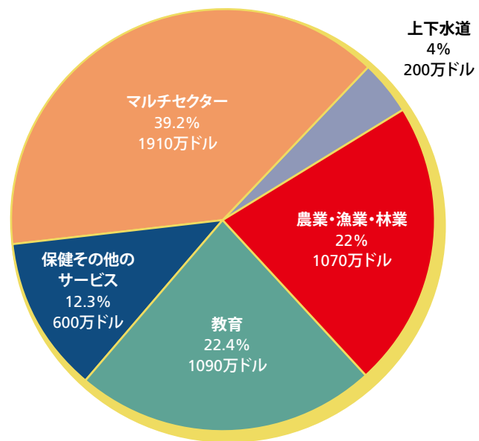
シード基金：通常プログラムのグラント・プロポーザル作成のため、特に、遠隔地や広範な地域に分散している潜在的受益者グループとの早期の協議を可能にするため、最高5万ドルの資金を提供します。

特別プログラム：アフガニスタンの開発やキャパシティ・ビルディング、2004年12月の南アジア／インド洋諸国を襲ったインド洋大津波の被害からの復興活動、2005年10月にパキスタンで発生した地震の被災地域の復興・再生など、特別な目的をもった様々な開発活動を支援します。

通常プログラム、特別プログラムのいずれも、キャパシティ・ビルディングとプロジェクト活動の両方にグラントを提供します。具体的には、次の活動が対象となります。

プロジェクト・グラント：本グラントが支援するのは、(i) 貧困層に直接働きかけ、貧困層向けのサービスや施設の改善を支援し、社会的セーフティーネットを活性化する活動、あるいは (ii) 新たな革新的アプローチ（特に社会セクターを対象としたもの）である。

キャパシティ・ビルディング・グラント：本グラントが支援するのは、キャパシティ・ビルディングや能力向上を目的としたもので、例えば、現地コミュニティやNGOの実地訓練を通じた強化などである。また、現地コミュニティと共に取り組みを進める現地政府にも支援を行う。



2009年度の通常プログラム・グラントのセクター別配分
（合計26件、4880万ドル）